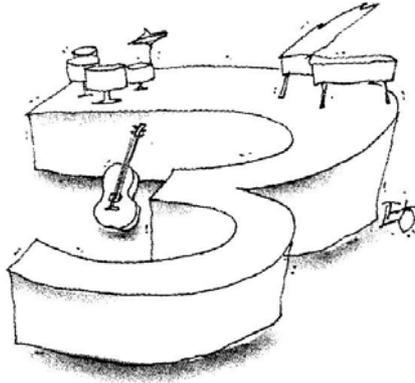


ピアノ三重奏

第2編 15章

キリストの救いのみ業は預言者、王、祭司の三重の職務を通じて行われる。



キリスト(油注がれた者)という称号は預言者、王、そして祭司の三つの職務にすべて当てはめることが可能です。私たちの主イエス・キリストは聖霊の油注ぎを受けて、父なる神の恵みを伝える証人として任命されたのです。この油注ぎはキリストを他の預言者、王、祭司たちと区別させるものなのです。

ピアノとエレキギターとドラムが組んでピアノ三重奏を演奏するなら変なことになってしまいうでしょう。ピアノとラッパと笛でピアノ三重奏を演奏することにも無理があります。楽器の数だけ合わせてもピアノ三重奏になる訳ではないからです。そうでしょう。ピアノ三重奏は名前だけではなく、楽器もピアノ、バイオリン、チェロで構成されなければならないのです。弦楽三重奏であればバイオリン、ビオラ、そしてチェロが一緒にならねばなりません。どんな楽器でも数字だけ合わせればピアノ三重奏になると考えるのは大きな過ちです。キリストの御名を呼んでいるなら、みな同じ信仰を告白しているではありません。キリストの三職について聖書が教えているところを正しく、そして十分に理解する必要があるのです。

第1節 預言者としての職務

異端者たちもキリストの御名を呼んでいます。教皇主義者たちもキリストが神の御子であり、世の救い主であると声高らかに叫んでいます。しかし、彼らが語る三重奏はピアノ三重奏ではありません。まったくのでたらめなのです。彼らの呼んでいるキリストは私たちの教会が聖書を通して知っているキリストではありません。彼らはパウロが語るように頭であるキリストにしっかりと付いてはいないのです。

「偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです」(コロ

サイ 2:18、19)。

私たちがキリストを正しく理解しようとするなら、彼に三重の職務があることを知っておく必要があります。それは預言者、王、そして祭司としての職務です。もしこの三重の職務を知らなかったり、知っていてもその目的と効果が何であるかを知らなければたいへんなことになります。

まず預言者としてのキリストを聖書から見つけ出してみましょう。敬虔な昔の人々はもちろんのこと、まことの宗教がなんであるかさえ悟ることができなかったサマリアの人々までも預言者としてのメシアが来られるならば真理を完全に悟ることができるかと信じていました(ヨハネ 4:25)。もちろんそのような希望は彼らが自分から作り出したものではなく、聖書の啓示が根拠になっているのです。その中でもイザヤの言葉が特に有名です。「見よ / かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし / 諸国民の指導者、統治者とした」(イザヤ 55:4)。

また、イザヤはその方について他のところで知恵者、偉大なる使者、また解釈者とも呼んでいます(イザヤ 9:6、28:29; エレミヤ 32:19)。さらにヘブライ人への手紙のみ言葉はキリストの預言者としての職務について次のようにはっきりと証言しています。「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました」(ヘブライ 1:1、2)。かつての預言者たちの使命は教会に対してその特別な預言者(御子)に対する期待を抱かせることであり、その期待を失うことがないようにさせることだったのです。

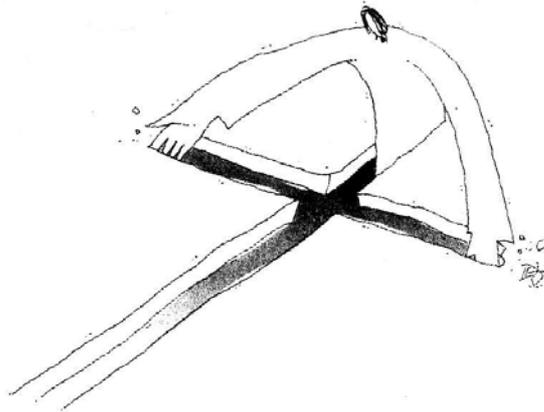
キリスト(油注がれた者)という称号は預言者、王、そして祭司の三つの職務にすべて当てはめることが可能ですが、特に預言者に関してイザヤは次のように語っています。「主はわたしに油を注ぎ / 主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして / 貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み / 捕らわれ人には自由を / つながれている人には解放を告知させるために。主が恵みをお与えになる年 / わたしたちの神が報復される日を告知して / 嘆いている人々を慰め...」(イザヤ 61:1、2; 参照 4:18)。

キリストは聖霊の油注ぎを受けて、父なる神の恵みを伝える証人として任命されたと語っています。その油注ぎはキリストを他のすべての預言者と区別させるものでした。そして彼が聖霊の油注ぎを受けられたということは、彼が自分の教える職務を遂行するために自覚を持つようするためだけではなく、彼の体全体のためでもあり、それによって福音の説教がつねになされ、聖霊の力が伴うためでもあったのです。そして、彼が伝える完全な教えはかつての預言の教えを終結させるものとなりました。

ですから私たちはすべて彼のみ言葉に聞かなければなりません(マタイ 17:5、3:17)。また教会の頭である彼によって聖霊の油注ぎが教会のすべて肢体に広げられているのです(ヨエル 2:28)。キリストの内にすべての知恵と知識と悟りの宝が隠されているためです(コリントー 1:30; コロサイ 2:3)。私たちは使徒が告白したように世のすべての知識と知恵はキリストを知る知識に比べて塵あくたにすぎないことを告白せざるを得ません(フィリピ 3:8; コリントー 2:2)。

第2節 王としての職務

キリストの王権について語る時にまず忘れてはならないことがあります。それは彼の王権が霊的な性格を持っているとすることです。この霊的性格から私たちは私たちのためにキリストの王権が与えられた真の効果と恵みを理解し、そのすべての力と永遠性についても正しく理解することができるのです。そしてこのキリストの永遠なる王権は彼の教会全体と教会に属する人々一人一人に及んでいます。



神はご自身の御子の手を通してご自分の教会の永遠なる保護者、また守護者になられると約束されます（詩 89:35 - 37）。そしてその御子は死に勝利し、生きてご自分の肢体と結合されると宣言されています（詩 53:8、10 - 12）。ですから私たちはキリストが永遠の王権で武装されるという言葉を知るとき、彼の永遠なる保護によって教会が永遠に存在することが可能であることを覚えなければなりません。従って悪魔が世界のすべてのものを動員して挑みかかろうとしても、彼は絶対に教会に勝利することができないのです。教会はキリストの永遠なる権能の王座を土台として建設されているためです（詩 2:2、4；詩 110:1）。

同様にキリストの永遠なる王権は私たち信者一人一人に永遠の御国を約束し、保証してもらっているのです（ヨハネ 18:36）。ですから私たちがキリストの王権が永遠だという言葉を知るとき、私たちはこの言葉から勇気を受け、よりよき生命に対する希望を抱くようになるべきなのです。また私たちのこの命が今、キリストのその権能の御手によって保護されていることで、たとえ今、しばらくの間は私たちが苦しめられたとしても来るべき世では神の恵みが見事に実を結ぶことを信じ、喜びの中で今を耐え忍ぶ必要があるのです（マルコ 10:30）。

私たちの王であるキリストがこの地上で私たちに与えられるものは豊かな財産や快樂、輝かしい栄華ではありません。むしろ私たちはたくさんの誤解とあざけり、弾圧をこの地上で受けなければなりません。キリスト者が行く道は生涯十字架を負って戦い続けなければならない道です。敬虔な者のこの世での生活は悲しみと苦しみに満ちた旅人の生活に過ぎないのです。しかし、私たちの永遠なる王であるキリストは私たちにそのすべての苦しみと災いに戦って勝利できる勇気と力を与え、永遠の命に対する喜びに満ちた希望とさまざまなよき聖霊の賜物で日ごとに私たちに豊かに満たして下さるのです。そしてすべての信者たちはあふれる喜びを持ちながら、悪魔と死に対して恐れることなく戦うことができるのです。

父なる神がキリストに聖霊の油注ぎを与えられた理由は（イザヤ 11:2；詩 45:7；ヨハネ 1:32；ルカ 3:22）、私たちすべてに聖霊の賜物を豊かに分け与えるためでもあったのです（ヨハネ 3:34、1:16；エフェソ 4:7）。キリスト者が命を受け、力を受ける道はその道の他にはありません。このように父なる神は御子にすべての権能を与えられることで、御子の手を通して私たちに治め、養い、支え、保護し、助けて下さるのです。

同じように父なる神はキリストを通じて教会を間接的に統治され、保護し、導かれるので

す（エフェソ 1:20 - 23）。キリストは私たちの仲保者になられることで私たちの近くに來られ、信じる者すべての王となり、牧者になってくださるのです。しかし、彼は同時に恐るべき審判者でもあるという事実を忘れてはなりません（詩 2:9、110:6）。キリストの裁きは今、この地上でも行われていますが、その完全な裁きは最後の審判の日に実現するのです。

第3節 祭司としての職務

キリストはご自分の聖さと義で私たちと神とを和解させてくださいます。神と私たちの間には罪が横たわっていてお互い近づくことができません。罪人たちに向けられる神の怒りを解決するためにはその罪を贖う必要があるのです。そしてその罪の贖いは血によらなければ不可能です（ヘブライ 9:7）。律法に定められた大祭司たちは動物の血によって日ごとに神の前に出て、民の罪を贖いましたが、それでは完全な和解は実現できませんでした。

大祭司たちもやはり私たちと同じように罪人でした。彼らも結局は死なねばならず、真の仲保者とはなり得ないのです。また本当に動物の血が人の罪を贖うことができるのでしょうか。すべての動物犠牲が示し、レビ人や大祭司たちが待っていた永遠なる仲保者こそキリストです。キリストはメルキゼデクに等しいとこしえの祭司（詩 110:4；ヘブライ 5:6）になられて、染みも傷もないご自身の体を永遠なる献げ物としてただ一度神に献げられたとこしえの祭司なのです（ヘブライ 7:16、23-28、13:11、12）。

ですから、私たちは私たちのとこしえの祭司によって日ごとに、神の恵みの御座の前に大胆に近づいていくことができるのです（ヘブライ 4:14-16）。したがって、現在の私たちはもうこれ以上、犠牲を献げる必要はありません。ですから教皇主義者たちが毎日、ミサを献げて、そのたびにキリストを犠牲として献げるということは本当にばかげていると言ってよいのです（ヘブライ 10:9-14）。

むすびの言葉

ピアノ三重奏はピアノ、バイオリン、チェロで構成されるものです。私たちが私たちの唯一なる仲保者であるキリストを正しく理解しようとするなら、彼の三職を正しく理解する必要があります。キリストは私たちのために神が立ててくださった預言者であり、王であり、そして永遠の祭司です。私たちには今日もこのような仲保者がおられるために、幸いなのです。私たちもキリストにあって聖なる実を結び、神に喜ばれることができるようになりたいものです。